

# 20年後の藤田地区を考えた、小・中・高連携の取り組み。

事例1

岡山市南部に広がる干拓地である藤田地区は、米づくりなどの農業が盛んな地区です。この藤田地区にある小学校3校と藤田中学校、県立興陽高等学校が、3年前から総合的な学習の時間を中心に、連携してESDに取り組みんでいます。



▲藤田地区の農家でインタビューに挑戦する子どもたち

きっかけは、地域の高齢者が持つ強い郷土愛が、その子ども・孫の世代になかなか受け継がれていないと地域の教員らが感じたことでした。そこからの取り組みは、下記にまとめています。

小・中・高を中心に、公民館や岡山ESD事務局、大学や地域の人々まで、たくさんの人々と、緩やかにかつ継続的に関わることで、子どもたちにもさまざまな変化が表れてきたのだそうです。

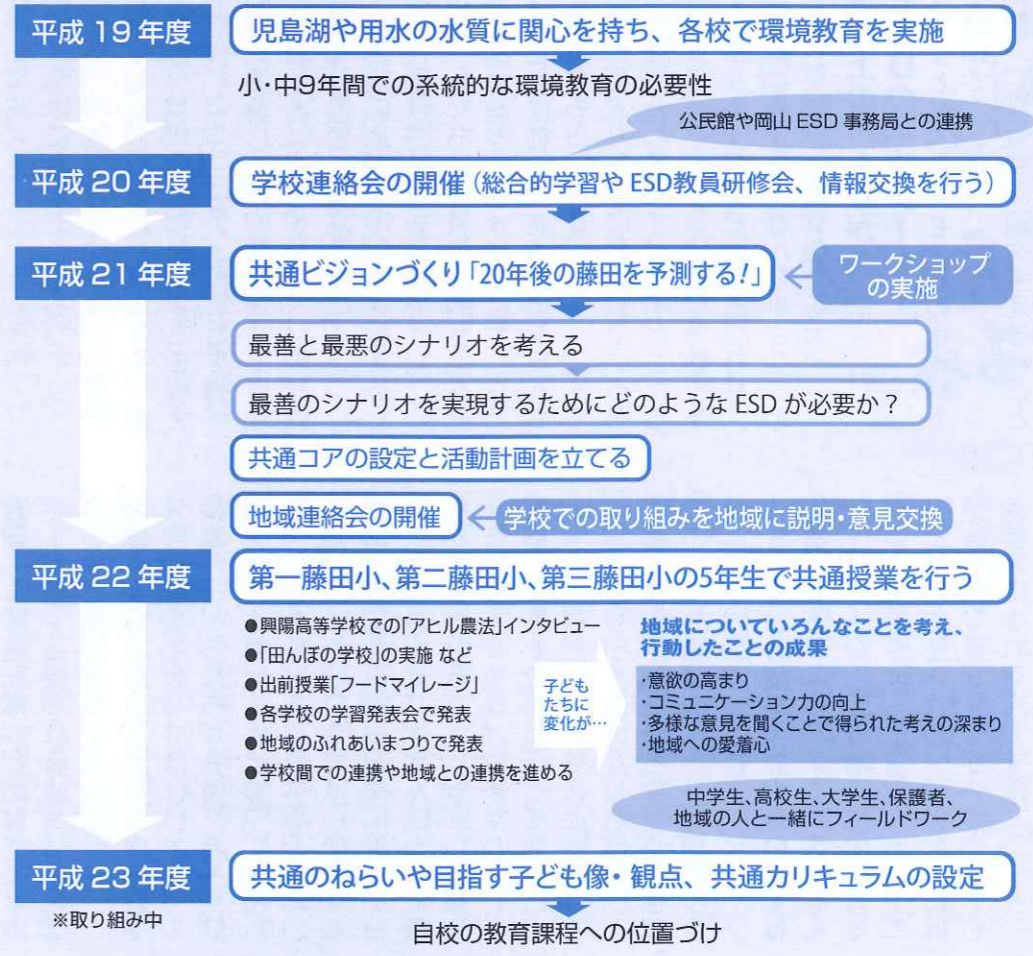
この小・中・高の一貫した取り組みは、ユネスコ憲章に示された理念を、学校現場で実践するために発足した「ユネスコスクール」の目的と合致するため、ユネスコスクールへの加盟も申請しているそうです。

ESDに  
取り組みながら  
地域のことを  
考えるように  
なりました



藤田地区

## 藤田地区の連携の歩み



# 岡山市で行われているESD活動

岡山市から未来・世界へ  
つながるプロジェクト



ESDについての お問い合わせは  
岡山ESD推進協議会 事務局（環境保全課）  
TEL (086) 803-1284 FAX (086) 803-1737  
電子メール kankyouhozen@city.okayama.jp までお願いします。

## 持続可能な社会について話し合おう。

事例2

ESDカフェ

今年4月から毎月1回18時30分から、北区下石井二丁目の環境学習センター「アスエコ」で、誰でも気軽に参加できるカフェを行っています。このカフェは、講師の話を一方向的に聞くのではなく、参加者みんながそれぞれの知識や経験を出し合う場。持続可能な社会、まちづくりについて、さまざまな視点で話し合いが行われています。

初回の4月は、震災があったことを受けて、「震災から持続可能な社会について考える」というテーマで開催され、話題提供者として福島県川内村から避難して来られた人が入り、活発な意見交換が行われました。



▲ざっくばらんな雰囲気で見聞交換が行われる

## 海底ゴミを回収してきれいな海に。

事例3

NPO法人「グリーンパートナーおかやま」

瀬戸内海国立公園の一部である金甲山への産廃施設建設に反対する住民運動をきっかけに誕生し、現在はNPO法人になった「グリーンパートナーおかやま」は、ゴミ問題を中心に、身近な地域はもとより、岡山県、瀬戸内海、そして地球環境の改善を目標に活動している団体です。

この「グリーンパートナーおかやま」が、子どもとその親を対象に行っているイベントのひとつが「ワクワクキッズ海底探検隊」という海底ゴミ回収底引き網体験学習です。このイベントは、岡山の山や川、海に捨てられたゴミが海流の関係で小豆島の近くの海底に堆積しているとい



▲こんなにたくさんの海底ゴミが…

う実態を、底引き網をしながらか体験するものです。そして、日常的なゴミ問題や、きれいな瀬戸内海とそこに住む生物の多様性を保つ方法を考える契機を子どもたちに与えることができました。また、イベントは多くの行政機関、大学などの教育機関、地元マスメディアなどの賛同も得て行うことができました。

# 標準語と岡山弁で

# 大募集 ESD キャッチフレーズを 考えよう! 「ESDをひとことで あらわすと?」

岡山市では、さらに「ESD」に親しみを持ってもらうために  
キャッチフレーズを募集します。標準語と岡山弁で、  
楽しく、わかりやすく、覚えやすいひとことをお願いします。



例/3

「地球と地域の  
未来をつくる学び」  
(環境省)



例/1

すこしずつ、自分から、  
今いるところから、  
変えてみよう。  
この地球でみんなが  
ずっと生きるために  
(岡山ESDプロジェクトのパンフレット)



例/2

「子どもらに  
ええまちゅー(まちを)  
残そーやー」  
(岡山市ESD推進協議会事務局)



最優秀賞 ● 標準語...各1点  
● 岡山弁

岡山県立興陽高等学校の生徒さんたちが育てた有機無農薬アヒル米5キロと岡山の特産品詰め合わせセット

優秀賞 ● 3点程度

岡山市の特産品詰め合わせセット

参加賞 ● (抽選による)10点

岡山市の特産品

### 応募上の注意

- ・1人何点でも応募できます。
- ・岡山弁だけでも標準語だけでもかまいません。
- ・未発表のオリジナル作品に限ります。
- ・応募作品は返却しませんので、ご了承ください。

### 最優秀・優秀作品の取り扱い

最優秀および優秀作品は、岡山市および岡山ESD推進協議会によるESDの広報等に使用させていただきます。なお、応募者から提出された個人情報、本企画の目的以外に使用いたしません。

ファクス、  
メールアドレスは、  
6・7ページを  
ご覧ください。

### 応募方法

はがきまたは封書、ファクス、電子メール(パソコン、携帯電話どちらでも可)にて、  
キャッチフレーズ、住所、氏名、年齢、電話番号を記入して応募してください。  
なお、優秀賞の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

### 応募締め切り

▷10月28日(金) 当日消印有効

### 応募先 問合せ先

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1  
岡山市環境局環境保全課  
「ESD キャッチフレーズ募集」係

## 「岡山市は今後もESDに力を入れていきます」 ● 岡山市長 高谷 茂男



国際会議の誘致をして実感した、  
岡山市の草の根ESDの  
素晴らしさ。

私は最近、国際会議の誘致を通じて国や世界で活躍されている人にお会いし、ESDに関して意見交換を行いました。その中で岡山市では特に市民による地域での草の根ESDが盛んな点が、国内外から高く評価されていることを実感してきました。また市内には、持続可能な暮らしが育まれてきたことを示す多くの文化遺産や豊かな自然が残っており、現在、岡山市域が世界で最初の「ESDの拠点(RCE)」に認定されている理由が、あらためて分かったような気がしています。

### 会議誘致をきっかけに、 岡山のESDを世界へ。

RCEは、2005〜2014年までの「国連ESDの10年」に基づく活動です。岡山市としては、まずはこの成功に貢献していくことが求められますし、ESD自体の趣旨を踏まえると、2014年以降も継続して取り組む必要があります。

このため、今後も小・中学校や公民館での活動の強化や、発展途上国の環境問題の解決支援、国際交流などにも取り組み、市民の皆さんとともに「世界のESD拠点」として、広域的なESDの推進、持続可能な社会の発展に積極的に貢献していきたいですね。まずは国際会議の誘致に全力を尽くします。

(平成23年9月15日現在)

### 事例4

## 地域の日本人と 外国人との 共助を。

### 岡輝公民館

岡輝学区は、学区住民の47%が外国人。中でも中国人の割合が高い地区です。ただ、言葉の問題もあり、この地区に住む日本人と外国人が互いに交流する機会も限られています。文化の違いから在住外国人の行動に戸惑う住民がいる一方で、東日本大震災をきっかけに災害の多い日本での生活に不安を感じる在住外国人も多くいました。ですが、お互いどうしたらいいのか、分からないままです。



▲地域の外国人の災害に対する不安の声を聞くことから始まった第1回多国籍防災会議

「防災会議」を開催。両者の交流の場を設け、コミュニケーションを図りながら理解し合い、訓練をともにし、災害に強い、新しい地域づくりを目指しています。



### 事例5

## 竹枝「生きものの 里づくり」を 目指して。

### 建部町竹枝地区

北区建部町吉田の市立竹枝小学校は、児童数がわずか30人ほどの小規模校です。平成18年に小学校と竹枝地区の住民有志で「竹枝を思う会」が結成され、ふるさとのよさを伝えていく協働事業や、学校支援ボランティアを始めました。

まず、荒れていた旭川の河川敷を整備し、水辺での遊びを復活させました。今では毎月1回「たけえだ水辺の楽校」として、河原キャンプや自然の宝探し、アユ漁体験、ホタル狩り、裏山探検などを行っています。また、「川底が固まってアユがとれんようになった」という地元の声が発端となって「旭川かいぼり調査」を実施しました。これは川をせき止めて、干上がった川の魚を拾って、その数で川の健康度を調べるものです。地域の人や漁協だけでなく、行政や岡山理科大学など多くの協力を得て実施され、まだ良好な環境にあることが確認されました。



◀せき止めた川で行う旭川かいぼり調査

こうした活動が評価され、平成20年に竹枝地区は「岡山市身近な生きものの里」に認定されました。現在も里づくりの活動が続いています。



「一人の百歩より百人の一步」が  
モットー。地域のみんなで  
取り組み、学びから持続発展  
し続ける社会をつくりたい。

岡山市京山地区ESD推進協議会 会長

池田 満之さん

岡山市京山で生まれ育つ。環境カウンセラーや技  
術士の資格を持ち、地元でESD活動に取り組む。  
県内の4大学で非常勤講師なども務める。

京山地区の多彩な活動で、  
社会の中で共生する力を育む

平成14年のヨハネスブルグ・サミッ  
トで、現在の岡山ESD活動の基とな  
る岡山市の提案を世界に向けて発信  
した池田さん。京山地区でのESD活  
動を行う流れを生み出しました。

ESDは、持続可能な社会をつく  
るための教育活動です。だから、一  
人一人がよりよく生きるための力を  
つけるだけでなく、社会の中で共  
生きる力を育むことが大切なのです。  
また、誰もが安全安心にずっと住み  
続けられる社会にするため、地域の  
望ましい将来像を自分たちの手で描  
き、その将来像に向けて地域社会全  
体で活動していくことが大切です。  
京山地区では、こうした点を重視し  
たESD活動に取り組んでいます。  
例えば、地域と公民館と学校が協  
働して、子どもから高齢者まで一緒  
になって行う「環境てんけん」。地域  
の人と歴史と文化を映像で残す「ム

# 地域に根ざした ESD活動に 取り組んでいます



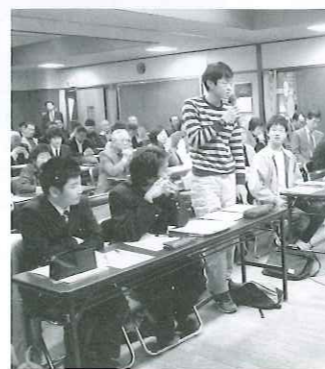
(高島地区) 賞田地区の休耕田でアユモ  
ドキが産卵を行っている



(高島地区) アユモドキは旭川と吉井川  
水系、京都府の淀川水系のみに生息



(京山地区) 「ムービー京山」活動では  
高齢者も参加して映画づくりを行う



(京山地区) 「市長と語る会」での  
と水の道」プロジェクトが開始



中学生からの提案で、「緑

「ピー京山」。子どもたちや地域が望  
むまちづくりを具現化していく「緑  
と水の道」プロジェクト。地域全体  
にESDを浸透させていくための  
「ESDフェスティバル」。それぞれ  
の活動で過去・現在・未来を捉えつつ、  
地域の将来像へとつなげています。  
また、子どもたちを主な活動の核に  
置くことで、子どもたちが主体的に  
社会参画できるようにしています。

地域の間関係を大切にしながら  
幅広い世代や学社連携で教育を

私は京山地区が地元で、ESD活  
動には立ち上げ時から携わっていま  
すが、よく壁にぶつかっていました。  
でも、みんなで取り組むESD活動  
は、地域の中で人間関係や絆を強  
めてくれ、たくさんの方が助けてく  
れました。ESDに取り組んだこと  
で、京山地区には公民館を拠点に、  
地域の中で子どもから高齢者までが  
コミュニケーションを取れる場がで  
きました。また、自分たちの手で地  
域の未来を描き、行動できる場がで  
きました。今後は、ESDで学んだ  
ことを生かせる場づくりを充実させ、  
学びから持続発展し続ける京山地区  
にしていきたいと願っています。

「生き物と農業の共生」の実現に  
向かって、対話の場が生まれた。  
昭和52年7月2日付で国の天然記念  
物に指定されたアユモドキ。希少な淡  
水魚であるアユモドキの保護活動と、  
高島地区の農業の関係について、吉田  
さんに話を伺いました。

高島地区の産業は古くから農業が  
ベース。しかし、アユモドキが国の  
天然記念物に指定されたときから、  
用水の管理などに制限がかかるよう  
になりました。また、3年前にアユ  
モドキやほかの淡水魚が大量死した  
こともあるなど、時として農業とア  
ユモドキの保護が両立しないことが  
多かったのです。

しかし、実はアユモドキが少なく  
なったのは、田んぼが少なくなっ  
たから。農業を大切にすることがアユ  
モドキを守ることにつながるので  
希少な生き物も農業もどちらも大切  
ということを双方に理解してもら  
うため、私たち高島公民館の職員は長  
い間、試行錯誤していました。

そんな中、岡山市がESDの学校  
教材を開発するにあたって、このテ  
ーマを取り上げ、高島小学校の5年  
生が中心となって取り組むことにな  
ったのです。これを機に、人工繁殖  
をしたアユモドキの展示会を行っ  
たり、アユモドキの保護活動団体や農  
家の人々、高島公民館の職員などで  
座談会を開催。お互いの思いを直接

相手に話したことで、ぐっとその距  
離が縮まりました。

お互いを知ることがESDの  
基本であり、まちづくりの基本

子どもを中心にして活動に取り組  
んだことも大きな成果を上げました。  
子どものためにどんな未来、どんな  
高島地区を残してあげられるのかを  
考えることで、お互いに歩み寄りの  
一歩が踏み出せました。今、大きな  
転機になっているところです。

ESDの活動はもとより、地域を  
よくしていくことで大切なのは信頼  
関係。異業種・異文化を持った人た  
ちが相手のことを知り、気持ちを寄  
せていくことがスタートだと思いま  
す。そして、子どもが成長する中で  
ここで経験したことを次世代につな  
げてほしいと願っています。

生き物を守ることと、農業を  
守ることは共存できる。  
子どもたちの未来のために、  
地域のあり方を考え続けます。

岡山市立高島公民館 主任(社会教育主事)

吉田 郁美さん

平成17年からアユモドキに関連する事業に携  
わる。高島地区は地元でもあり、地域住民と行政  
としての立場から、保護活動と農業を見つめる。



# 読者アンケート & プレゼント!

特集「ご存じですか?ESD」はいかがでしたか?  
 今回も、「みんなのおかやま」への意見や感想を募集します。  
 意見を寄せていただいた方の中から、  
 抽選でプレゼントも当たります。

前号、「安全・安心ネットワーク」  
 に寄せられた意見・感想の中  
 から、いくつか紹介します。

20代  
 雨の日も風の日も  
 地域の方がしてくださるパトロールに、  
 頭が下がる思いです

60代  
 自分の町内は防犯意識が足りないと感じた。  
 人と人の絆を大切にしたい

50代  
 周囲に支えられ、守られて  
 暮らしていることに気づき、  
 感謝の気持ちが湧いてきました。

自分もできるかぎりお返ししなければ!

40代  
 犯罪被害者の相談窓口が  
 あることを初めて知った。  
 心強いです

60代  
 災害のない岡山だからこそ、  
 思いやりのある岡山に

20代  
 地域コミュニティの強化が  
 健全なまちづくりにつながると思った

60代  
 あんしんカプセル、知りませんでした  
 地域の子どもたちやお年寄りを  
 しっかり守り、地域みんなを  
 協力しあうことが大切だと思う



## 読者プレゼント

岡山市イメージキャラクターミコロ・ハコロ  
 ぬいぐるみストラップ(2個セット)  
 合計10人にプレゼント



今回の特集号への感想、今後読んでみたい  
 内容などを明記して、応募してください。

### 応募方法……

はがきまたは封書、ファクス、電子メール(パソコン、携帯電話どちらでも可)にて、特集号への意見、住所、氏名、年齢、電話番号を記入して応募してください。なお当選者の発送は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

応募先は下記の「編集後記」欄をご参照ください。

携帯電話からは、右のQRコードを読み込んで応募を。

応募締切 10月31日(月)当日消印有効

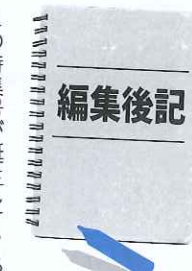
ご意見をお聴かせください



## 表紙の写真ウラ話



表紙に写っているのは、被災地の子どもたちを招待する事業で来岡した仙台市立北六番丁小学校の6年生と、岡山市立建部小学校・福渡小学校・竹枝小学校の子どもたち。北区建部町田地子の田地子川に入って生き物を採取し、それを分類して講師の説明を受けました。岡山と仙台とは生息する魚の種類も違うし、呼び方も違うようで、子どもたちは真剣な顔で説明に聞き入っていました。



この特集号が誕生して、ちよつと1年。過去の号では「子育て」「安全・安心のまちづくり」など、岡山市が力を入れて取り組んでいる内容を紹介してきました。そして今回のテーマ「ESD」、初めて耳にした人も多いと思いますが、この言葉はまさに「旬」のキーワード。

今後、ESDの国際会議などを岡山市で開催してもらおうと、関係者が熱心に活動を続けているのです。本号にもあったように、岡山市は日本でも有数の「ESD先進地」。ここで国際会議が開かれることで、より多くの皆さんが活動に興味を持ち、さらに草の根レベルでの活動が盛んになっていくことが期待されます。未来の世代のために、住みよいまちをつくるために、皆さんのESD活動に、皆さんもぜひ参加してみてください。

2011年10月1日発行 第5号  
 発行 岡山市秘書広報室広報課  
 〒700-8544  
 岡山市北区大供一丁目1-1  
 ☎ 086-803-1024  
 ☎ 086-803-1731  
 電子メール  
 kouhouka@city.okayama.jp  
 ホームページ  
 http://www.city.okayama.jp/  
 制作・編集 (株)ピザピリレーションズ